

# いま 若者の自立とそれを支える家族の現状を知ろう

平成29年8月29日(火) 午前10時～11時15分

黒沢尻北地区交流センターにて

## 《参加者》

不登校と若者の自立を考える北上地区父母会(竹の子会)

北上市長 高橋 敏彦

保健福祉部長 石川 晴基 学校教育課長 高橋 亨

事務局(司会) 政策企画課長 斎藤 昌彦

## 《テーマ》

不登校・ひきこもりの家族や支援者の現状について



## 竹の子会とは…

不登校やひきこもりについて、本人や保護者の支援を目的に20年ほど前に設立。

NPO法人岩手県青少年自立支援センター「ポランの広場」と連携して、保護者の情報交換や交流(月1回)、勉強会、相談会などを開催しています。 問い合わせ先: 0197-66-5022 (三国さん)

## 市長あいさつ



今日はタウンミーティングに手を上げていただき、ありがたく思っています。ひきこもりや不登校については、全国的な報道はありますが、北上の状況はどうなっているのだろうか、と話題に出ていました。特に、不登校については学校に情報がありますが、卒業した後は、全くわからないでいました。

一昨年、民生委員を通して各地域の状況をわかる範囲で調べていただき、60人弱の方々を把握することができましたが、まだいるのではないかと考えています。

親御さんをはじめ御家族は、事情によってつらい思いをされているのではないのでしょうか。行政は何をすればいいのか、議会でも取り上げられましたが、情報もなく、わからないという状況です。

こういう集まりがあり、呼びいただいたということは、大変ありがたく、今日をきっかけに、今後も様々な情報交換が出来ればいいのではないかと思います。

また、北上市のしらゆり大使である、斎藤環(たまき)さんは北上市出身で、この分野の専門家です。こういうご縁も大切にしながら、一緒に出来ることをやっていければと思います。今日はぜひ皆さんの思いや情報をいただき、共有していきたいです。

## 解説

### 市長と話そうまち育て タウンミーティングとは…

市内で活動している団体の皆さんが、日ごろの取組みや活動を通して気づいたことなどについて、市長と気軽に意見交換する場です。



### 北上しらゆり大使とは…

北上市の魅力や折に触れて宣伝し、まちづくりに役立つ情報を提供していただくほか、市へ提言をしていただく、北上市出身あるいはゆかりのある、首都圏に住む方々です。現在19名に委嘱しています。

### 斎藤環さんとは…

筑波大学医学医療系社会精神保健学教授、精神科医。北上市出身で、北上しらゆり大使を委嘱しています。

不登校・ひきこもりの専門家として、様々な講演活動などを行っています。

## フリートーク：会員の皆さんの状況・思い

**後藤さん：**今回のタウンミーティングの言いだしっぺです。息子が3年半ほどひきこもっています。その間に考え、勉強したことを自分の言葉でお話しできたらと思います。

以前は、行政に何かしてもらいたい、という思いが強かったのですが、今は、まずは知ってもらいたいという気持ちが強くなっています。知らないということは偏見につながります。私の職場にも、不登校・ひきこもりを乗り越えてきた子がいますが、私が、明るく普通に、息子が社会的ひきこもりだと話したので、自分のことを話すことが出来たと言われました。どんどん当事者でない人にも状況を知ってもらって、子どもたちは劣ってもいないし、弱者でもない、ただ普通に接してもらいたいということを伝えたいです。息子は社会福祉協議会のボランティアに行っています。他の人には出来ないことをしてい

きちんと生活を送っており、どこも悪いところはありません。少しチクッと刺激してあげたいですが、どう接したらいいか、わかりな

いいています。息子がひきこもった時に、自分が一緒にダウンしてしまっ

**高橋さん：**私は埼玉県で教員をしていましたが、退職してから「聞く」という立場で、教育相談会という場に参加していました。不登校・ひきこもりの悩みを親だけが抱えるのではなく、共有・受容してもらうことが大切だと考えています。こちらに越してきてからも、同じように悩んでいる方に、あなたのせいではないよ、という声かけができるようなつながりを持ちたいと思っており、竹の子会に参加するようになりました。

市長にはぜひ、世間体を気にして

てすごいいね、と言ったら仕事出来る人は仕事をする、学校に行ける人は学校に行く、自分は今仕事出来ないけど、ボランティアならできるから、やっているだけ、と言われました。

**鈴木さん：**うちの息子は、小学校に入ってすぐ、行きたくないと言い出し、別室登校を続けました。小中学校とも、先生に大変良くしていただき、中学3年の後半は教室に行けるようになりました。通信制高校に入り、休学しながらも今年卒業できました。大学や専門学校に行ってみたいという夢があるようで、応援してあげたいと思っています。しかし、実際そこまでの勇氣や学力、経験、情緒の不安もあり、進めないでいます。パソコンが好きなので、それを



ひきこもりを隠している親がたくさんいると知ってほしいです。ひきこもりを克服したある子どもに、親に対してどのような気持ちを持っていたか聞いたところ、お父さんは自分をわかってくれようとしたので好きだった、お母さんは世間体ばかり気にしていたので、殺したいとも思っ

たと聞き、衝撃を受けました。もちろん、事情はそれぞれだとは思いますが、自分のものさしを押し付けず、子どもの気持ちをあわてないで、理解していくことを竹の子会だけでなく、ほかの組織にも発信できるといいなと思います。

**三国さん：**このような活動に関わって30年になりますが、当初の子どもたちが、40～50代になっています。親を亡くして、収入がなくなっても、普通の労働が出来ません。日本は特に不登校やひきこもりが多いようで、社会のあり方が生み出しているのではないかと思います。親の職

活かしたいのですが、北上には専門学校しかなく、盛岡のスクールに通うには距離や資金の問題があります。県外には発達障害の子に専門にパソコンなどを教えてくれる環境があり、うらやましいです。息子も、様々相談に行っていますが、ニーズに合うところがありません。ずっと家にいるのもつらいので、どこか自分のペースで通えるところがあるとよいのですが、なかなか見つかりません。竹の子会の方から誘われて、1～2週間に一度、仕事をさせていただいていますが、もう少し動きたいのではないかと感じています。

**藤田さん：**うちの息子は、中学3年の時に学校が怖い、と不登校になりました。今24歳で、ほかの2人に比べれば、まだ家の中にいたい、というタイプですが、家族に申し訳ないと思っているようです。家族に迷惑をかけないようにこっそり行動していますが、毎日

業や環境に関係なく、誰にでもありうるように思います。

また、時代によって、子どもの不登校やひきこもりの原因が変わってきています。北上は、昔から工業都

市であるため、父親の転勤で来た子どもが、言葉が合わなくて、いじめに遭ったりして不登校になった例もありました。最近では、社会とのつながりが出来なくて、インターネットのつながりだけを頼りにしているという若者が増えているように感じます。

私は北上が大好きなのですが、9万3千人の北上市民がみんな楽しく暮らせる市にしたいと思います。学校でいじめられるから、教育委員会から学校に働きかけてほしい、と親が訴えても、学校からそのような事実はないと回答されたこともあります。北上ではそういうことがないようにしてほしいです。

**後藤さん：**市長さんひとりで出来ることではないと思うし、お願いする以上、こちらも何かしていかなくてはいけないと思います。



## 竹の子会について

**市長：**竹の子会は、県域の組織ですか。北上だけの組織ですか。

**三国さん：**最初は全県ひとつの集まりでしたが、今は県内に9か所同様の組織があります。日常の情報交換は、市単位で行い、イベントなどは県下でまとまって行っています。昨年の「岩手のつどい」は北上で行われました。

**後藤さん：**中心となっているのは盛岡にある「ポランの広場」というNPOです。

**市長：**昨年で行ったイベントについては新聞で拝見しました。普段はどんな活動をしているのですか。また、会員制なのですか。

**三国さん：**通常は月に1度の情報交

換会（例会）です。会員は10名ほどで、年3,000円の会費をいただいています。

**市長：**会員の中で、学校に通っている方、卒業された方の割合は。

**三国さん：**不登校は中学生が1人、あとは高校生です。

**後藤さん：**例会に毎回来ているのは、今日来ているメンバーで、あとは毎回1～2人誰かが来るというパターンが多いです。

**市長：**情報が共有できるだけでも、気持ちが違うのではないですか。

**三国さん：**親の思いを語れる場所はないかなありません。どこそで話せるような内容でないと思っている方が多いです。

**市長：**役所の人間は事務仕事が得意

でも、素人です。できればこういう専門的なグループの活動を支援する窓口があれば良いと思っています。この会に限らず、まちづくりを行う団体に対して、情報、財源、会場などのサポートをする「市民活動情報センター」を設けているので、そちらを利用しても良いと思います。なかなか自分の状況を言い出せない方々もいると思いますが、今日の懇談を報道などで目にすれば、糸口になるのではないかと思います。



## 誰とつながる・どうやってつながる

**市長：**例えば誰かの話を聞きたい、呼びたいという希望はありますか。

**後藤さん：**先日、斎藤環さんが盛岡で講演した際、専門家ではない普通の第3者と関わることでケアされていくというお話があったそうです。まさにうちの息子は更木の桑茶の工場に行き、普通の人たちと接することで精神的に満足感を得て成長しているところですよ。

私もここで泣いて話を聞いてもらっただけで気持ちがすっきりして安心感ができ、それが息子にも伝わりました。まずは親が安心して幸せに暮らせる世の中を作ってほしいと思います。環さんにもお会いしてみたいのですが、時間もお金もかかります。子どもたちは365日何とかしてもらいたいと思っていますので、お金をかけて限られた機会を作るより、市職

員全員を上げて、ひきこもりの子たちのことを知ろう、というくらい勢いでやってくれたら嬉しいですよ。

**市長：**出来る

職員も、出来ることもあると思います。実際に情報交換していれば、それが政策につながります。今日はとても良い機会です。

**後藤さん：**先の議会でも、社会的ひきこもりについて一般質問があつて良かった。議員さんがあそこまで突っ込んで勉強されて質問されることはなかなかありませんでした。

**市長：**具体的にこういう風に困っているの、そこをサポートしてほしいなという風に質問していただければ、非常にいいですね。

**後藤さん：**それがひとりひとり違って、一様にまとめられない。だからこそ、専門家でなく、普通の人たちに交じるのがいいと思っています。

**市長：**行政は人事異動で職員は変わります。芸術、まちづくり、福祉、様々な分野で、それぞれ強みを持った団体やコミュニティの活動と行政が一緒になって、協働でサポート体制を作ることが大切だと思います。せっきくの母体がありますので、そこに行政を巻き込んでほしいです。

**後藤さん：**まずは月1回の例会に来て、知ってもらうのがいいですね。

**市長：**何かしてほしい、ではこちら何も出来ません。色んな情報が入ればアイデアも出てくると思います。環さんにこだわらずとも、仙台や東京にも、皆さんと同じような考

え方で立ち上げているグループもあるので、そういうところから情報を得るのもいいと思います。

**後藤さん：**医療機関と連携するのもいいかもしれません。奥州市のさくらクリニックのひきこもり家族相談会にも参加していますが、わざわざ奥州まで通っているのは、北上にそういうひきこもりとか不登校を相談できるお医者さんがいないためです。

また、奥州市では、そういったひきこもりの家族の話を聞いてくれる窓口があると聞きました。担当は保健師さんだと思いますが、病院や県の中部保健所を紹介してくれる機関があるようです。

**市長：**市では、北上じゃなくて、奥州にはあるということも知りません。やるとなれば市でも担当者を決めて、情報をいただけるようにしていきたいですね。

**鈴木さん：**今は自分たちでしか、情報を探せないもので、日々模索しています。美容室でも、息子の事情を説明して、長いことお世話になっている担当の方がいますが、将来の話とか、色々アドバイスをいただいたりして、成長させていただいてありがたいなと思っています。色々なところで、ここはこの人、と言うのを自分で探して積み重ねてきてようやく過ごしてきました。



**市長：**皆さんの御苦勞を、ほかの人と共有できればいいのですが、それもできずに親御さんまでもひきこもってしまっている場合もあるのでないですか。

**藤田さん：**ひきこもりというと、閉じこもっていて暗くて、何だか事件を起こしそうなイメージを持つ人もいます。決してそうではなく、普通に生活しているのですが…。

**鈴木さん：**私は聞かれたら言うてしまうので、周りが状況をわかっています。

**後藤さん：**私も自分から言うので、同じ状況の方が集まってきて、色々と情報交換ができています。

**市長：**情報の提供や、新聞への投稿などもとても効果的で、それを見て、相談してみようかなという人も出てくると思います。月に1人でも、新しい人が来るようになればいいですね。

**三国さん：**法に基づき、県ではひきこもり支援センターなどを設置し、具体的には、花巻保健所での各種教室などにお世話になっています。今は、様々な原因が複合的に重なって不登校・ひきこもりという結果につながっています。市町村でも総合的な体制を作っていかなければいけないと思います。

**市長：**そのためにも、個別の情報を出来るだけいただきたいです。

**三国さん：**例会などのお知らせをしても、これまで来ていただけませんでした。北上は保健所がなくなって

しまったので、花巻より支援が薄いように感じます。お互いに理解を深め、お医者さんにも、行政にも進歩してもらいたいです。

**市長：**医師会という場もあるので、情報提供していきたいです。関心のある先生がいれば、お誘いできるかもしれない。情報発信がとても大切。今日は大きなステップです。

### 人材を生かしていくには

**三国さん：**実際、8時間の労働をやらせてと言っても、簡単に出来る若者たちではありません。複合的な理由があるのに、結局、障がいを持っているような扱いを受けて、一生を終えてしまう人もいます。

**市長：**各地域でコミュニティビジネスも進めようとしています。「〇〇ならできる」という情報を上げてもらえれば、少しの時間からお手伝いをしてみる、ということが行政でマッチング出来るのではないかと思います。

**後藤さん：**ひきこもっている人材もったいないです。それをまちづくりに生かせると思います。

**市長：**地域や企業、NPOの活動に触れるようなことがあってもいいのかなと思います。中間支援のNPOのスタッフや、行政のスタッフを入れて、情報交換をすると、アイデアは出てくると思います。

**三国さん：**市が把握している人数は50人程度だったようですが、毎年新たに増えていきます。すべての市民

が暮らしやすいまちづくりのためにこのことを大事にしてほしいです。

**市長：**行政が動けるような情報の発信をしていただけると良いですね。まちづくり部で出前講座もやっている。担当を出前講座で呼んで、話をしてもらいつつ、こちらの話も聞いてもらうのも良いかもしれません。

**三国さん：**ひきこもりについては、各分野が錯綜していて、関係者みんなが集まらなければ解決できません。

**市長：**理解がある企業もあります。例えば保護司活動をサポートしてくれる企業もあります。例会に企業を呼んでみてもいいかもしれませんね。そうするとためしに少しアルバイトさせてくれるという話にもつながるかもしれません。

**三国さん：**ゆとりのある事業主さんを見つけるのも苦労しています。

**市長：**そのためにも、情報発信していくことが大切です。

**三国さん：**農家に手伝いに行った子どもに様子を聞いたら、4時間しか働いていない。あとは農家の方に、若い人がいてくれるというだけでいい、と言ってもらったということもあった。

**市長：**担当の職員だけでなく、例えば農林部の職員などに、一緒に来てもらっても良いかもしれない。

**政策企画課長：**「これが知りたい」というテーマがあれば紹介もしやすいので、相談いただきたいです。

### 今日のまとめ・感想

**藤田さん：**今日は本当に内容の濃いお話が出来たと思います。ひきこもりと言って、十把一絡げで考えず、個々それぞれできっかけも、考えていることも違う子どもたちなので、それをどう高めていけばいいのか、外に向かわせるにはどうしたらいいかというのがこれからの課題になると思います。また色々と相談に乗っていただきたいと思います。

**三国さん：**さすが北上市長さんは懐が広いと感じました。ただ、市長さんの耳に入れないでいると、進まな

いのかなという印象を持ちました。

**高橋さん：**市長さんに時間を取って話を聞いていただける、素晴らしい機会だなと思いました。これから市民の生活の声を聞いていただきたいと思います。

**鈴木さん：**毎日ネットで情報を探して翻弄され続けてきましたが、今回こういう場があって、話をすれば、自分一人で動かなくていいというのがわかってよかったです。

**後藤さん：**時間を作っていただいてありがとうございました。開催できてよかったです。ただし、またス

タート地点に立っただけだと思っているので、今後もよろしくお願いします。

**市長：**今日は我々も知りたい情報を得ることが出来ました。色々な方を呼んでいただくことによって、アイデアにつながってくると思うので、ぜひその活動を続けていただいて、行政と一緒に、お互いに助け合えると良いなと思います。

！ありがとうございました！

